

## 平成 28 年度 動物愛護相談センター動物由来感染症調査結果

(平成 29 年 7 月 1 日現在)

## 1 猫のカプノサイトファーガ保有状況調査

- (1) 検体採取期間 平成 28 年 4 月～平成 28 年 12 月  
 (2) 対象及び規模 猫 80 匹の歯及び歯茎スワブ検体  
 (3) 方法 PCR による *Capnocytophaga canimorsus* 特異的遺伝子の検出  
 (4) 結果

検体	検体数	陽性数	%
スワブ	80	48	60.0
幼猫(1年未満)	0	0	—
成猫(1年以上)	80	48	60.0
歯なし	3	0	0.0
歯あり	77	48	62.3
雄猫	43	29	67.4
雌猫	37	19	51.4

(参考) 平成 26 年 5 月～平成 28 年 12 月の累計

検体	検体数	陽性数	%
スワブ	408	168	41.2
幼猫(1年未満)	204	38	18.6
成猫(1年以上)	204	130	63.7
歯なし	114	15※	13.2
歯あり	294	153	52.0
雄猫	227	94	41.4
雌猫	181	74	40.9

※高齢の歯なし 1 匹を含む。

## 2 犬と猫のダニ媒介性 SFTS (重症熱性血小板減少症候群) の抗体保有状況調査

- (1) 検体採取期間 犬:平成 4～8 年度、平成 23～26 年度、猫:平成 25～27 年度  
 (2) 対象及び規模 犬 620 頭の血清、猫 232 匹の血清  
 (3) 方法 ELISA による抗体検査  
 (4) 結果

	犬			猫		
	検体数	陽性数	%	検体数	陽性数	%
平成 4 年度	52	0	0.0	—	—	—
平成 5 年度	54	0	0.0	—	—	—
平成 6 年度	58	0	0.0	—	—	—
平成 7 年度	60	0	0.0	—	—	—
平成 8 年度	63	0	0.0	—	—	—
平成 23 年度	125	0	0.0	—	—	—
平成 24 年度	112	0	0.0	—	—	—
平成 25 年度	69	0	0.0	89	0	0.0
平成 26 年度	27	0	0.0	95	0	0.0
平成 27 年度	—	—	—	48	0	0.0
計	620	0	0.0	232	0	0.0

### 3 犬と猫の寄生虫の調査

- (1) 検体採取期間 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月  
 (2) 対象及び規模 犬 3 頭(延べ検体数 4)、猫 87 匹(延べ検体数 97)の糞便  
 犬 1 頭、猫 68 匹の虫体  
 (3) 方法 直接塗沫法及び飽和食塩水浮遊法による糞便中の虫卵の同定  
 解剖検査による心臓内及び消化管内における虫体確認と同定  
 (4) 結果 糞便検査

検体	検体数	陽性数	%	寄生虫
犬糞便	4	1	25.0	犬鞭虫
猫糞便	97	22	22.7	マンソ裂頭条虫、猫回虫、猫鉤虫、 イソス <sup>o</sup> ラ属

#### 虫体の確認

検体	検体数	陽性数	%	寄生虫
犬	1	0	0.0	
猫	68	15	22.1	犬糸状虫、瓜実条虫、猫条虫、 マンソ裂頭条虫、猫回虫

注) 虫体の確認の検体の犬は、負傷により、動物福祉の観点から致死処分したもの。

### 4 犬と猫の犬糸状虫の調査

- (1) 検体採取期間 平成 28 年 4 月～平成 29 年 1 月  
 (2) 対象及び規模 犬 1 頭、猫 62 匹の心臓内虫体及び血液  
 (3) 方法 解剖検査による虫体確認と同定、血液中マイクロフィラリアの確認  
 犬全血の抗原検査（市販キット使用※）  
 虫体からの分子生物学的解析による種の同定（健康安全研究センターに依頼）  
 (4) 結果 虫体確認

検体	検体数	陽性数	%
犬	1	0	0.0
猫	62	1	1.6

陽性 個体	虫体 (隻)	血液中 マイクロフィラリア	抗原 検査	種の同定結果
1	1	—	弱毒性	<i>Dirofilaria immitis</i>

注) 猫の場合、虫体が検出された個体のみ犬用の市販キットで抗原検査を行った。